

2019年度 臨床検査技師科 実務経験を有する教員等による授業科目の一覧

| 科目名 | 学年 | 規定時間数 | 担当する教員の実務経験 | 授業内容 |
|-------------|----|-------|----------------------------------|--|
| 病理組織細胞学実習 I | 2 | 30 | 臨床検査技師として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | この授業では、病理学検査の主な標本作製技術と基本的な染色技術を学びます。病理学検査は決められた厚さに薄切、気温や時間などを考慮しての染色など、正確な知識と技術が求められる分野です。本実習では、標本作製方法のなかで最も一般的なパラフィン包埋標本の作製法について学びます。また、基本的な染色であるヘマトキシリン・エオジン染色(HE染色)や膠原線維の染色について学んでいきます。 |
| 臨床血液学実習 I | 2 | 30 | 臨床検査技師として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | この授業では、臨床血液学の基本である血球に関する検査を勉強します。臨床では自動血球計数装置による検査となりますが、本授業における用手法により自動血球計数装置による測定原理の理解を深めます。また血球濃度やヘマトクリット値の測定などにより貧血のタイプの判定方法(赤血球の大小、赤血球に含まれるヘモグロビン濃度の高低)を学習します。 |
| 臨床血液学実習 II | 2 | 45 | 臨床検査技師として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | この授業では、白血球の分類から血液疾患にかかわる検査としての形態検査と血液凝固に関する検査に関連する実習を行います。凝固の成り立ちや血小板の働き、白血病等の分類に役立つ特殊染色法について学習します。また、赤血球系の特長検査等についても学びます。 |
| 臨床化学実習 I | 2 | 30 | 臨床検査技師として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 臨床化学検査は体液中の成分を化学的手法によって分析し、病気の診断や治療に必要なデータを提供するためのものです。本実習では、臨床で利用されている測定法の基本原理を確認し、実際の検査を通して臨床検査技師として必要とされる知識と技術を身につけていきます。また、正しいデータを提供するために必要な配慮や、数値から知ることができる様々な生体情報についても学んでいきます。 |
| 臨床化学実習 II | 2 | 45 | 臨床検査技師として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 臨床検査において、どんなに優れた分析方法を用いても、測定時に一定の条件が保たれていなければデータの信頼性は失われてしまいます。本実習では目的成分の測定法を学ぶだけではなく、測定条件を変化させて検査結果に与える影響を確認することで、さらに理解を深めていきます。また、入手したデータを様々な角度から分析し、疾患を総合的に考えていきます。 |
| 臨床微生物学実習 I | 2 | 30 | 臨床検査技師として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 臨床微生物学実習 I では、患者由来の検査材料に含まれる感染情報を正しく取り出すための技術と知識の習得を目的とします。その為の基礎として、培地の作製方法、微生物の培養法、基本の染色であるグラム染色等を実習します。また、その基礎知識を応用し、グラム陽性球菌の同定検査の手法とその流れを理解します。 |
| 臨床微生物学実習 II | 2 | 45 | 臨床検査技師として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 臨床微生物学実習 II では、微生物学・臨床微生物学講義および臨床微生物学実習 I で習得した基礎知識を生かし、病態を的確に把握する為の臨床検査技術を学びます。病原微生物を中心に微生物検査の検査手法とその流れを理解します。 |
| 臨床免疫学実習 II | 2 | 45 | 臨床検査技師として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する | 現在の免疫学検査では、非標識、標識検査により感度の良い検査が行われています。機械測定されている検査についてその原理を知り、診断経過観察に役立ちます。本実習で学ぶ感染症についてはその検査手技もさることながら検査意義が重要です。さらに自己抗体蛍光抗体法や免疫電気泳動などはその型を分類し判定することで診断、治療に影響を与えますので、検査手技、原理、判定基準を身につけます。 |
| | 計 | 300 | | |